



被爆ピアノのこと

昭和20年(1945年)8月6日、午前8時15分、アメリカ軍の原爆搭載機「B29エノラ・ゲイ号」が投下した原子爆弾(原爆)は、広島の上空580mで炸裂しました。爆発時の熱線と爆風が、一瞬のうちに広島をつつみ、爆心地周辺の地上の温度は、3000～4000度に達しました。半径約2Km内の建物は、爆風でほとんどがなぎ倒され、焼き尽くされました。多くの人々が命をおとしました。この中には、朝鮮、台湾や中国のひとつと、アメリカ兵捕虜も含まれていました。この本に登場する「ピアノ」は、当時、広島市内の千田町に住んでいたある少女の家で使われていたものです。爆心地からの距離は約1.8Km。この家も爆風で壊れ、焼け落ちてもおおしくない位置にあったといえますが、当時にはめずらしいコンクリートの頑丈な造りだったことや、家の向きなどが幸いしたのか、屋根が飛び、天井が落ちるなどの被害はあったものの、なぎ倒されることはまぬがれたのでした。ピアノも爆風で壁にたたきつけられ、傷だらけになりましたが、家がなんとかもちこたえたおかげで、こうして今に残ったのです。(絵本『ヒロシマのピアノ』(指田和子・文 坪谷令子・絵 文研出版刊より引用))

来県するピアノ

1 ヤマハ製 アップライトピアノ (ミサコのピアノ)

製造 昭和7年 製造番号18209
 形状 85鍵 象牙鍵盤 現在のU1の大きさ
 被爆状況 広島市中区千田町爆心地より1.8Kmの民家で被爆。
 経緯 被爆ピアノ所有者より、矢川光則氏へ託される。平成17年7月から矢川ピアノ工房所有。
 現状 被爆当時のままであるが、演奏は十分出来るように修復され、全国のコンサートで使用されている。

2 ホルゲル(HORUGEL)製 アップライトピアノ (カズコのピアノ)

製造 不明 製造番号13596
 形状 88鍵 象牙鍵盤 2本ペダル
 被爆状況 広島市南区段原山崎町爆心地より2.6kmで被爆。元の持ち主とピアノが自宅にて同時被爆。
 経緯 広島市中区の所有者より、矢川光則氏へ託される。平成21年5月13日から矢川ピアノ工房所有。
 現状 被爆当初のままであるが、演奏は十分出来るように修復され、全国のコンサートで使用されている。

矢川光則さん(被爆ピアノ管理所有者・調律師)のこと

矢川さんは、広島市内でピアノ工房を主催し、ピアノ調律の仕事をしています。矢川さんが被爆ピアノに出会ったのは、平成17年(2005年)7月のことです。それまで、矢川さんは調律の仕事をするかわら、壊れたり使われなくなったピアノを譲り受け、修理した後、ピアノのない施設に寄付したり外国に送る『ピアノのリサイクル活動』をしていました。それは「資源を守ろう、物を大事にしよう」といわれているこの時代にもかかわらず、まだ使えるピアノが、持ち主の事情で捨てられていく姿を数多く見てきたからでした。この活動のなかで、被爆したピアノにめぐりあったのです。持ち主の女性からピアノの思い出話をきいたり、改めて戦争や原爆の事を調べるうちに、それまで平和運動に関わりがなかった矢川さんの心に、変化があらわれます。やがてそれは「被爆したピアノの音色を多くの人に聞いてもらう事で、平和を考えるきっかけづくりができないだろうか」という思いに到達します。

この背景には、当時爆心地から約800mの場所で被爆したものの九死に一生を得て、戦後被爆者として生き、数年前に亡くなった矢川さんの父親の存在がありました。このピアノが工房にやってきたとき、矢川さんは、子どもの頃に父親から聞いた被爆の体験談や、それを語るときに苦しそうな父親の表情がよみがえってきたといいます。

「このピアノでコンサートを開こう。『被爆ピアノ平和コンサート』の輪は、今、全国に広がっています。

(絵本『ヒロシマのピアノ』(指田和子・文 坪谷令子・絵 文研出版刊より引用))

演奏者

《ピアノ》

山形大学大学院生(地域教育文化研究科ピアノ専攻)
 坂本 榛香(2)、宮澤 友里(2)、宮腰まい子(2)、
 山口 杏奈(2)、中澤 唯(1)

《声楽》

山形大学地域教育学部4年
 蘇武 絢子(sop.)、佐藤 匠吾(ten.)

《ハンドベル》

山形学院高等学校ハンドベル部

プログラム

矢川光則氏による講話、演奏者による演奏

- ・被爆ピアノについての質問にお答えします
- ・原爆・被爆資料パネルを展示します
- ・皆さんも是非「被爆ピアノ」に触れてみてください